

Acta Epsilonica 創刊にあたって

山下弘一郎* 田中未来†



Group Epsilon の公式出版物 *Acta Epsilonica* がついに創刊です。

現在, Group Epsilon の活動は, 年に数回の Group Epsilon Meeting, その内の 1 回を新大学生と新受験生にも開放された Aleph の開催を中心として, 周辺部分として, 主に学部初年級の学生会員の自主 seminar が主だったものになっています。

これらの成果を, 何らかの形で残していくことを考えました。また, それと同時に, seminar になっていなくても, member それぞれが知的に格闘し, 獲得した成果を公開する機会があるとイイナ, とも。かつてこれを実現するためには, ガリ版と鉄筆, 謄写版以外にはありませんでした。今われわれは, digital であり, かつ印刷可能なものを創造できる環境にあります。これを逃す手はありません。そんな理由で, 我々も digital publishing を試みたらどうか!? という考えに至り, その title も直ちに決まりました。

活動報告... 活動... act... acta...! “Acta Mathematica” — 数学活動報告!! かの Cantor が一般集合論の礎を築いた一連の論文を掲載し, 結果として編集にあっていた Mittaglegler から「貴方の論文は一世紀早すぎる」と言われて Cantor がオチコンダリした雑誌であり, また Kovalevskaya が初めてロシアの女流数学者として正規の地位としての教授職に就いた Sweden で, 編集の仕事をした雑誌です。彼女自身

の主要論文がこの雑誌に掲載されています。では, 我々の acta も, チリ acta にするのではなく, acta として活かそうではないか! と考えて捏造したのがこの “Acta Epsilonica” という title です。

以上が project の歴史的な経緯です。そして実質は...

1. Group Epsilon Meeting, Aleph などでの発表内容を文字にして, 論文としての体裁を整えたもの。および発表への review.
2. 自主 seminar の成果. Exercise への解法や解答. 読み進めているなかで得られた副産物, あるいは読んだものの日本語への翻訳.
3. 各個人の研究成果. 例えば課題として出された report が「我ながらウマク書けたわい!」と思えば, それを敷衍した論文や研究報告. 各自の勉強, 研究からの spin out.
4. 外国の文献の翻訳. 大きなものの翻訳は連載翻訳という形にする.
5. 得意な programming 言語の解説, 使い方, tips. その辺の入門書には書いていない表技や裏技. 入門する上で neck となる部分の体験記, 自分の書いた program が回ったときの感激と自慢.
6. 自分の専攻, 専門と関係がなくても, 思ったこと, 重要だと思われたことなどをまとめた essay, 随筆や随想. 和歌, 短歌, 俳句, 川柳, などなど.

以上から解ると思いますが, 要するに面白ければなんでもありということです。メンバーのみ

* Group Epsilon 名誉顧問, *Acta Epsilonica* 主筆.

† 東京理科大学 理工学部 経営工学科, Group Epsilon 顧問, *Acta Epsilonica* 編集長, mirai (at) rs.tus.ac.jp.

なさんからの積極的な投稿を期待しています。

創刊号の Volume 1, Number 1-2 では、滝脇さんと田中による学術的な記事ならびに佐々木さんの随筆に加え、Group Epsilon Meeting 2016 #1 の実行委員長を務めた杉浦さん自身による開催報告という 4 本の記事を採録しています。また、表紙には Group Epsilon のロゴマークを配しました。

滝脇さんの記事“ブラックホールを正しい長さで可視化する方法”は、いくつかの設定のブラックホールを可視化する方法について考察された力作です。物理学や天文学、あるいは幾何学に興味がある方にはじっくり読まれることをおすすめします。また、この記事は Group Epsilon Meeting 2016 #1 における葦塚さん発表“等長地図が出来ないワケ”とのつながりが深く、参加された方は特に面白く読むことができるように思います。

次に、拙著“Google PageRank の数理”では、Web 検索エンジンで使われている数理モデル

とアルゴリズムを初学者にもわかるように書いたつもりです。情報科学や応用数学に興味を持っている方はもちろん、学部初年度で勉強する線形代数の応用について知りたいという方にはうってつけであると自負しています。

佐々木さんの記事“いつか言葉を越えた世界へ行くために”は短い随筆ですが、編集部では読み応えがあり示唆に富む良い記事であるという評判です。佐々木さんは司法試験に合格した後、現在は司法修習生として法律の実務家への道を歩んでいる方です。法律を扱う上での困難や苦勞から生まれた佐々木さんならではの考察は一読の価値ありです。

最後の記事、“Group Epsilon Meeting 2016 #1 開催報告”は Group Epsilon Meeting 2016 #1 の実行委員長を務めた杉浦さん自身による開催報告です。コンパクトでありながら会の様子が伝わってくる報告であるように感じます。Group Epsilon に参加してみようと考えている方はぜひ参考にして下さい。